

[¹⁸F]標識新規アミロイドイメージング剤-PET(ペット)検査を受けられる 皆様へ (検査結果の説明につき)

[¹⁸F]標識新規アミロイドイメージング剤・[¹⁸F]FPYBF-2 によるポジトロン断層撮影検査(PET)の検査について、結果説明の意義、および結果の説明を希望されるかどうかについて、ご説明申し上げます。

1. [¹⁸F]標識新規アミロイドイメージング剤-PET (ペット) 検査の検査結果の医学的意義について

[¹⁸F]標識新規アミロイドイメージング剤 ([¹⁸F]FPYBF-2 と略す) は放射性薬剤であり、認知症やその関連疾患の際に脳のなかに増える物質とされるアミロイドの増加の程度の指標となるとされています。今回の検査は健常ボランティアの方を対象としており、将来計画されている患者様の検査に先駆けて、健常者の方における平均的なアミロイドの増加の程度を今回の新規 PET 薬剤を用いて年齢別に検討することが目的です。従って、今回の新規 PET 薬剤を使用した場合での健常者における平均的なアミロイドの程度は現時点では十分に判っていませんので、個別のボランティアの方のそれぞれの検査結果が平均的なのか、あきらかに異常であるのかなども判らない状態です。従って、各ボランティアの方にご自身の検査結果をご説明申し上げる場合であっても、検査結果の医学的意義に関してははっきりとしない状態ですので、写真をお見せしたり簡単な説明をするしかありません。

また、脳でのアミロイドの増加は認知症やその関連疾患の際には強く見られる所見ですが、健常者にも見られることがあります。しかし、アミロイドの増加を有する健常者が必ず認知症やその関連疾患に進行するのか、どのくらいの期間で進行するのか、それともそのまま変化がない方もあるのか、現在の医学において未だに明らかではありません。

さらに、現在の医学において、認知症やその関連疾患の治療法は進行を抑える内服薬(認知機能改善剤)や作業療法等の非薬物療法等が主体で、脳内のアミロイドの沈着を減らしたり、取り除くような抜本的な薬物療法などは存在せず、一部の治療可能な認知症(正常圧水頭症など)を除けば十分な治療体系があるとは言いがたい状況です。このため、仮に脳内のアミロイドの増加が疑われた場合でも、今後の治療に直ちに役立つわけではなく、むしろ無用な心配の種を蒔くだけに終わる可能性もあります。

従って、医学的意義が明らかでないご自身の検査結果を知らされることは、場合によってはあなたの今後の生活において不利益となる可能性もあります。

2. 検査結果の説明の希望の有無とその理由

以上の点をご了承して頂いた上で、検査を希望して下さる場合には、ご自身の検査結果を説明してもらいたいのか、そうでないかの希望を、検査の前に明らかにして頂く事を原則としています。よろしくご了承ください。下記の結果説明に関する同意書に署名の上、原本を診療録に5年間保管します。必要あれば、複写をお渡ししますので、ご自分でも保管いただけます。お申し出ください。

滋賀県立成人病センター研究所
画像研究部門 (PET 検査)
担当 東 達也